

# 1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	専攻別造形演習		単位	7	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	3年	6	組	
使用教科書	日本文教出版 高校生の美術3						
使用副教材							

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

**学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか**

2年次後半よりデザイン系と絵画系（ファインアート）に専攻を分けて実習してきた。デザイン系はグラフィック、プロダクトなど各種のデザインを学び、絵画系（ファインアート）は油彩、日本画、彫刻、版画など各種の純粋芸術の分野を学ぶ。主に卒業制作と受験課題を各自の専攻で制作する。また12月に行う作品展を通して、美術展の企画と運営を学び、作品展示に関する基本的な知識を得る。

**学習内容：この科目で学習する大まかな内容**

①専攻別デッサン

前期は広い分野で応用出来る基礎的なデッサンを中心として制作。後期より各自の実技試験に合わせて個別課題を制作する。石膏デッサン、静物デッサン、自画像デッサン、手のデッサン、想定デッサン、構成デッサン、平面構成、静物油彩、自画像油彩、配布モチーフと言葉のイメージをテーマにした油彩、静物着彩等

**学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか**

(1)学校  
主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。また受験対策として放課後を毎日実施する。更に春期講習、夏期講習、年度末講習の実施によって実力を  
(2)家庭

# 3 この科目の評価方法について

**評価方法：何をを使って評価するのか**

完成した作品によって評価する。技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。

評価における定期考査の割合

0 %

# 4 この科目の評価の観点について

**評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか**

(1)関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度。

(2)思考・判断

画面全体を構成する総合的判断力、イメージを作る創造力。

(3)技能・表現

構成力、色彩感覚、表現力、描写力。

(4)知識・理解

各種素材、画材に対する知識の理解度。

## 5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	5	<b>■スケッチ実習</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>「青森県内の風景を描く」約10時間 画材：F8画用紙パネル水張り 透明水彩またはアクリルガッシュの選択</li> </ul>	●	●	●	●	
1	5	<b>■専攻別課題①</b>   	<ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン系「8エコデザイン課題」約10時間 8エコを周知させるポスターを作成する フォトショップによるポスター</li> <li>絵画系「エコをテーマに構成デッサンする課題」約10時間 ケント紙に水性ボールペン</li> </ul>	●	●	●	●	
2	9 ～ 10	<b>■卒業制作①</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「卒業生制作①」54時間 各自の専攻分野で作品を1点～2点制作 平面作品の他、映像作品、立体作品など 多様な領域で制作する。 規定：CG・アクリルB1以上、 油彩F50以上、日本画F30以上 映像5分以上</li> </ul> <p>画材：油彩、日本画、CG、透明水彩、 アクリルガッシュなど</p>	●	●	●	●	
2	10 ～ 12	<b>■美術系大学受験対策課題</b> 美大受験生以外： 卒業制作②  	<ul style="list-style-type: none"> <li>「美術系大学受験対策課題・卒業制作②」 114時間 個別課題 授業と放課後講習を使って制作 前期：基礎的デッサン中心 後期：実技試験に合わせた個別課題 石膏デッサン、静物デッサン、 想定デッサン、構成デッサン、 自画像デッサン、手のデッサン、 平面構成、静物油彩、自画像油彩、 配布モチーフと言葉のイメージを テーマにした油彩、静物着彩等</li> <li>「卒業制作②」 卒業制作の2点目。 道徳教育を実施：作品展に向けた制作 をとおり、芸術を通しての外部への働 きかけを学び、私的な制作から、公的 な制作への転換と、芸術の果たす社会 での役割を学ぶ。</li> </ul>	●	●	●	●	
3	1	<b>■展覧会開催実習</b>   2023年1月20日（金） ～1月23日（日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品展の企画 作品搬入展示 作品集の制作 作品展の運営</li> </ul>	●	●	●	●	

# 1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	日本画			単位	1単位	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	3年	6組			
使用教科書	日本文教出版 高校生の美術3							
使用副教材								

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

<b>学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか</b> ①膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など、伝統的な専門技法の学習 ②2年次で学んだ日本画の制作行程を応用し、本格的な制作に取り組む ④綿密な観察による描写の実習 ③日本画特有の空間表現の追究
<b>学習内容：この科目で学習する大まかな内容</b> 専門的知識と経験が必要な日本画は、約1ヶ月の集中授業の形式で学習し、専門の講師が指導にあたる。3年次では、2年次に学習した岩絵具の基本的な使い方と、各種描法を応用して、更に大型の作品制作に取り組む。描法は、墨描きで進める方法と、画面に地塗りを施して描く方法、揉み紙をする方法の3種類から選択して制作する。また箔を使用する技法も学ぶ。 テーマは①「静物」、②「花」、③「風景」、④「自由課題」から選択。 風景はスケッチ実習で制作した作品を原画とする。自由課題の中には、事前に制作した動物園でのスケッチを原画とする作品が含まれる。
<b>学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか</b> (1) 学校 主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使って集中した制作を行う。放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。  (2) 家庭

# 3 この科目の評価方法について

<b>評価方法：何を使って評価するのか</b> 完成した作品によって評価する。 技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。
評価における定期考査の割合 0 %

# 4 この科目の評価の観点について

<b>評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか</b> (1) 関心・意欲・態度 課題に取り組む意欲、態度。  (2) 思考・判断 画面全体を構成する総合的判断力。  (3) 技能・表現 デッサン力、色彩感覚、表現力。  (4) 知識・理解 日本画画材の理解。
--

## 5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	6	■日本画  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本画」（46時間） F20雲肌麻紙に岩絵の具</li> <li>・テーマ               <ul style="list-style-type: none"> <li>①「静物」 モチーフ（6月に決定）</li> <li>②「花」（6月に決定）</li> <li>③「風景」</li> <li>④「自由課題」 風景はスケッチ実習で制作した作品を原画とする。本年度は港の風景を描く。</li> </ul> </li> </ul> <p>技法は下記の3つの描法から選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①墨描き 濃淡2～3段階の墨で、線に強弱をつけながら骨描き。墨の線を生かしながら、岩絵の具で描く。</li> <li>②地塗り 黄土の白か、焦茶や黒の11番で下塗りした後、15番前後の岩絵の具を入念に塗り重ねる。 地塗りの上に岩絵の具で描く。</li> <li>③揉み紙 麻紙をもみ紙して、その後水張り。白か15番の細かい粒子の絵の具で地塗りを施す。地塗りした画面に岩絵の具で描く。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「箔」の技法を実習する。 銀箔、アルミ箔を使用</li> <li>・伝統的な専門技法の学習</li> <li>・日本画の制作行程を一通り実習</li> <li>・綿密な観察による描写の実習</li> <li>・日本画特有の空間表現の追究</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画材 配布：F20パネル・F20画用紙・雲肌麻紙・トレーシングペーパー 持参：デッサン用具一式・水彩用具一式</li> </ul> <p>道徳教育を実施：日本画制作を通し、日本の再発見へと繋げ、日本文化を愛する心を養い、伝統を伝える事の大切さを学ぶ。</p>	●	●	●	●	○

# 1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	美術Ⅲ		単位	5	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	3年	6組		
使用教科書	日本文教出版 高校生の美術3						
使用副教材							

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

**学習目標：**この科目を学習して何を身につけてほしいのか

3年生美術Ⅲでは、主としてデッサンの領域を実習する。

1年次に物の観察の仕方と画材の使い方、基本的な形態の描写を学習し、2年次ではより難度の高いモチーフを描き、空間表現等に留意した制作を行った。3年次では更に完成度を高め、大学受験レベルの作品制作を行う。基礎的な力に加えて画面構成力、想定デッサンに応用される描写力を養う。

**学習内容：**この科目で学習する大まかな内容

モチーフ個々の描写、モチーフ同士の関係、空間感、物の構造的な把握を追究する。

更に、与えられたモチーフを効果的に構成して描く課題、一部想定を含む課題も制作する。

またモチーフや言葉から想起されるイメージを描く課題も重点的に制作する

**学習方法：**この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。

定期考査を利用したコンクール形式の実技試験を行う。

(2) 家庭

連休課題「手の構成デッサン」は、自宅課題として制作する。

# 3 この科目の評価方法について

**評価方法：**何を使って評価するのか

完成した作品によって評価する。

技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。

評価における定期考査の割合

35 %

# 4 この科目の評価の観点について

**評価の観点：**この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度。

(2) 思考・判断

デッサンでの総合的判断力。モチーフの構成力。

(3) 技能・表現

描写力、表現力、形態の構造の把握。

(4) 知識・理解

出題者の意図を理解して最適な対応を判断する理解力。

## 5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	■卓上配布デッサン	・「卓上配布デッサン」 B3画用紙に鉛筆 12時間 モチーフ：牛乳ビン、針金、 「H」が大きく印刷されたA4用紙 テニスボールを自由に構成して描く (針金のみ形態を加工可)	●	●	●	●	
1	4 ～ 5	■5月連休課題 手の構成デッサン	・「手の構成デッサン」 B3画用紙8時間以上 「テープを剥がす手」を描く	●	●	●	●	
1	4 ～ 5	■石膏デッサン	・「石膏デッサン：胸像」21時間 木炭紙に木炭または木炭紙大画用紙 に鉛筆 モチーフ：ガットメラータ、マルス ジョセフ、ジョルジョ、モリエール	●	●	●	●	
1	5	■静物デッサン・ セットモチーフ	・「静物デッサン：セットモチーフ」 バケツブロック他 木炭次第画用紙に鉛筆 約23時間	●	●	●	●	
1	5	■第1回考査デッサン 静物デッサン	・「静物デッサン：配布モチーフ」 B3画用紙に鉛筆 約2時間	●	●	●	●	
1	6	■第2回考査デッサン 静物デッサン	・「手とモチーフのデッサン」 B3画用紙 配布モチーフ 約2時間	●	●	●	●	
1	7 ～ 8	■夏季専攻別課題	・「デッサン課題」 30時間(1課題10時間×3) デザイン専攻：B3画用紙に鉛筆 絵画専攻：木炭紙に木炭もしくは 鉛筆で素描	●	●	●	●	
1	9	■大型セットモチーフ デッサン	・「大型セットモチーフ」23時間 デザイン専攻：木炭紙大画用紙に鉛筆 絵画専攻：木炭紙に木炭もしくは 鉛筆で素描	●	●	●	●	
2	9	■第3回考査デッサン	・「手とモチーフのデッサン」 B3画用紙 配布モチーフ 約2時間	●	●	●	●	
2	12	■第4回考査デッサン	・「自画像デッサン」 B3画用紙に鉛筆 鏡配布 約3時間	●	●	●	●	